

(19) 日本国特許庁 (J P)

## (12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2003-40336

(P2003-40336A)

(43) 公開日 平成15年2月13日 (2003.2.13)

(51) Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	テ-マ-ト*(参考)
B 6 5 D 81/07		A 4 5 D 34/00	5 1 0 Z 3 E 0 6 1
A 4 5 D 34/00	5 1 0	40/00	Z 3 E 0 6 2
40/00		B 6 5 D 8/06	A 3 E 0 6 6
B 6 5 D 8/06		25/10	3 E 0 8 4
25/10		41/04	A
審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 4 頁) 最終頁に続く			

(21) 出願番号 特願2001-228234(P2001-228234)

(22) 出願日 平成13年7月27日 (2001.7.27)

(71) 出願人 000001959

株式会社資生堂

東京都中央区銀座7丁目5番5号

(71) 出願人 000006909

株式会社吉野工業所

東京都江東区大島3丁目2番6号

(72) 発明者 高橋 俊

神奈川県横浜市都筑区早渕2-2-1 株

式会社資生堂リサーチセンター (新横浜)

内

(74) 代理人 100068157

弁理士 今岡 良夫 (外1名)

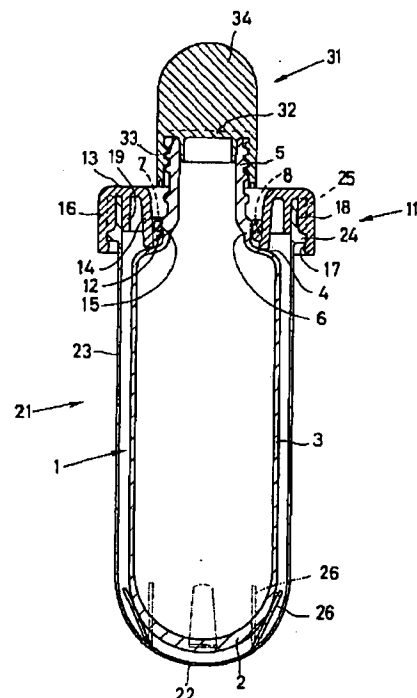
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 衝撃吸収容器

(57) 【要約】

【課題】 収納物に衝撃を与えないよう設けた、化粧品等収納用の容器を提案する。

【解決手段】 口頸部5の下部外面に切欠き7付きの第1係合突条8を周設した容器体1と、フランジ状頂板13内縁から垂設した吊下げ筒14の下部内面に周設した第2係合突条12を第1係合突条8下面へ係合させ、かつ第2係合突条から起立した回止め突部15を切欠き7内へ嵌合させ、頂板外周から外筒16を垂下する握持部材11と、容器体胴部を遊挿させて上方筒部を外筒16内へ固着させて設けた保護筒21と、容器体口頸部へ螺合させ、かつ頂壁32から弾性薄板34を起立するキャップ31とで形成した。



#### 【特許請求の範囲】

【請求項1】 第1胴部3上端から肩部4を介して、口頸部5を起立し、該口頸部の下部を大外径部6として該大外径部の上部に切欠き7付きの第1係合突条8を周設する容器体1と、

上記第1係合突条8下面へ係合する第2係合突条12をフランジ状頂板13の内縁から垂設した吊下げ筒14の下部内面に周設すると共に、該第2係合突条から上記切欠き内へ嵌合させて回止め突部15を起立させ、かつ吊下げ筒下端を肩部4上面へ当接させ、又上記頂板外周から外筒16を垂下する握持部材11と、

上記握持部材の外筒16内面へ、上方筒部を固着させて有底の第2胴部23を垂下し、該第2胴部内には第1胴部3を遊挿させた保護筒21と、

上記口頸部5へ着脱自在に螺合させたキャップ31とからなり、

上記保護筒21の底部内面から複数のバネ板26を起立してこれ等複数のバネ板で容器体の底部を保持させると共に、上記キャップ頂壁32の左右ないし前後方向中間部からは弾性薄板34を起立させたことを特徴とする衝撃吸収容器。

【請求項2】 上記握持部材外筒16の下端部内面に第3係合突条17を周設すると共に、該突条上方の外筒内面部分に複数の第1歯条18を縦設しておき、

又保護筒21の上部を厚肉の大径部24に、かつ該大径部下方筒部分を薄肉の弾性筒に形成して、上記大径部の上部外面に、上記第1歯条と噛合う第2歯条25を複数縦設すると共に、大径部の下端面外周部を上記第3係合突条17上面へ係合させ、又キャップ頂壁32の左右ないし前後方向中間部からは弾性薄板34を起立したことを特徴とする、請求項1記載の衝撃吸収容器。

#### 【発明の詳細な説明】

##### 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、衝撃吸収容器に関する。

##### 【0002】

【従来の技術】輸送時等において、容器体内へ収納された錠剤が衝撃を受けることを防止するために、容器体上部内へ柔軟な発泡剤を充填することが行われている。

##### 【0003】

【発明が解決しようとする課題】一般に化粧品を内容物とする化粧品容器は、化粧品の特性に適するよう種々の構成のものが提供されている。例えば化粧品の中には外部衝撃を受けることで損傷、具体的には有形物が変形し、又流動物に変質等するものもあり、このような化粧品は衝撃を極端に嫌うため、特別な容器を必要とする。

【0004】本発明はそのような化粧品等を収納するための容器を提案するものである。

##### 【0005】

【課題を解決するための手段】第1の手段として第1胴

部3上端から肩部4を介して、口頸部5を起立し、該口頸部の下部を大外径部6として該大外径部の上部に切欠き7付きの第1係合突条8を周設する容器体1と、上記第1係合突条8下面へ係合する第2係合突条12をフランジ状頂板13の内縁から垂設した吊下げ筒14の下部内面に周設すると共に、該第2係合突条から上記切欠き内へ嵌合させて回止め突部15を起立させ、かつ吊下げ筒下端を肩部4上面へ当接させ、又上記頂板外周から外筒16を垂下する握持部材11と、上記握持部材の外筒16内面へ、上方筒部を固着させて有底の第2胴部23を垂下し、該第2胴部内には第1胴部3を遊挿させた保護筒21と、上記口頸部5へ着脱自在に螺合させたキャップ31とからなり、上記保護筒21の底部内面から複数のバネ板26を起立してこれ等複数のバネ板で容器体の底部を保持させると共に、上記キャップ頂壁32の左右ないし前後方向中間部からは弾性薄板34を起立させた。

【0006】第2の手段として上記第1の手段を有すると共に上記握持部材外筒16の下端部内面に第3係合突条17を周設すると共に、該突条上方の外筒内面部分に複数の第1歯条18を縦設しておき、又保護筒21の上部を厚肉の大径部24に、かつ該大径部下方筒部分を薄肉の弾性筒に形成して、上記大径部の上部外面に、上記第1歯条と噛合う第2歯条25を複数縦設すると共に、大径部の下端面外周部を上記第3係合突条17下面へ係合させ、又キャップ頂壁32の左右ないし前後方向中間部からは弾性薄板34を起立した。

##### 【0007】

【発明の実施の形態】以下図面について説明すると、1は容器体で、半球面状に下方へ突出する第1底壁2外周から第1胴部3を起立し、該第1胴部の上端から肩部4を介して口頸部5を起立し、該口頸部の下部を大外径部6として、該大外径部の上部に図2が示すように左右ないし前後両側に切欠き7を有する第1係合突条8を周設している。又口頸部の上部外面には後述キャップ螺合用の雄ねじを周設している。

【0008】11は握持部材で、上記第1係合部下面へ係合する第2係合突条12をフランジ状頂板13の内縁から下方へ垂設した吊下げ筒14の下部内面に周設すると共に、該第2係合突条から上記切欠き内へ嵌合させて回止め突部15を起立させ、又上記頂板外周から外筒16を垂下する。該握持部材は容器体に対して回動不能に、かつ容器体を上記第1、第2係合突条の係合で吊下げたものであり、又容器体が上方移動しないように吊下げ筒14下端を肩部上面へ当接させている。外筒16はやや長く設けてその下端内面に第3係合突条17を周設し、かつ該第3係合突条17上方の外筒内面部分に複数の第1歯条18を縦設している。又その外筒との間に間隙をおき、容器体第1胴部外径よりも大外径の中筒19を垂下している。

【0009】21は保護筒で、下方へ突出する半球面状の第2底壁22外周から第1胴部3を遊挿させて第2胴部23

を起立し、その上方筒部を上記握持部材の外筒16内へ固着させている。上方筒部は厚肉の大径部24に、又該大径部下方筒部分は薄肉の弾性筒に形成し、大径部の上部外面には既述第1歯条18と噛合う第2歯条25を複数縦設し、大径部の下端面外周部を第3係合突条17上面へ係合させている。尚中筒19は大径部の内面へ緊密に嵌合させている。

【0010】第2底壁22の内面中央部からは複数のバネ板26をほぼ等間隔に起立し、それ等複数のバネ板が囲成する空間部内へ容器体底部を各バネ板の弾性に抗して押込みし、このようにすることで各バネ板により容器体底部を保持させている。

【0011】31は容器体口頸部外面へ頂壁32外周から垂下する周壁33を螺合するキャップで、その頂壁32の左右ないし前後方向中間部から頂壁直径と同一巾の弾性薄板34を起立している。又頂壁からは口頸部内面へ嵌合させてシール筒35を垂下している。

【0012】既述各部材はそれぞれ合成樹脂材で成形しているが、容器体1は収納物との関係上ガラス等で成形する場合もある。

【0013】

【発明の効果】本発明は既述構成とするものであり、請求項1記載の場合は、第1係合突条8下面への第2係合突条12の係合と、肩部4上面への吊下げ筒14下端面の係

合とで、容器体1を上下動不能に握持部材11で保護筒21内に吊下げることとなり、かつ保護筒21内における容器体第1胴部3の横揺れを複数バネ板26が弾性変形して防止することとなるから、保護筒21および握持部材11に加えられた衝撃を弱めることが出来る。又弾性薄板34でキャップに直接他物が当たることを防止することが出来る。キャップは口頸部に対して螺合するから、打栓式キャップの場合のように閉蓋時に容器体に対して衝撃を与えることがなく、握持部材11は容器体に対して回動不能としたから握持部材を持ってキャップの螺合、螺脱が出来る。

【0014】請求項2のようにすることで保護筒21と握持部材11とを一体的に固着でき、又第2胴部23の弾性変形を容易として、衝撃を和らげることが出来る。

【図面の簡単な説明】

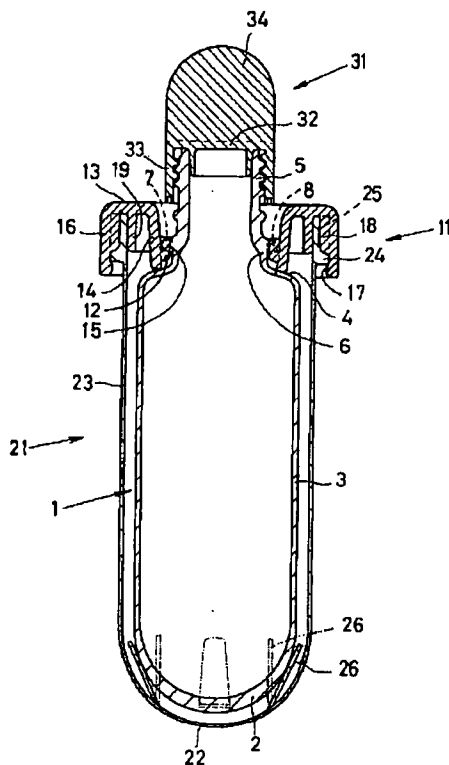
【図1】 本発明容器の縦断面図である。

【図2】 要部断面の展開図である。

【符号の説明】

7…切欠き	8…第1係合突条
11…握持部材	12…第2係合突条
14…吊下げ筒	15…回止め突部
17…第3係合突条	18…第1歯条
21…保護筒	25…第2歯条
31…キャップ	

【図1】



【図2】



フロントページの続き

(51) Int. Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	テーマコード (参考)
B 6 5 D	41/04	B 6 5 D 41/04	Z
		81/10	A
(72) 発明者 尾崎 尚武	神奈川県横浜市都筑区早渕 2-2-1 株式会社資生堂リサーチセンター (新横浜) 内	(72) 発明者 水嶋 博	東京都江東区大島 3 の 2 の 6 株式会社吉野工業所内
(72) 発明者 鳥居 晶仁	神奈川県横浜市都筑区早渕 2-2-1 株式会社資生堂リサーチセンター (新横浜) 内	F ターム (参考)	3E061 AA30 AB09 AD04 DA02 DA06 DB01
(72) 発明者 飯塚 茂雄	東京都江東区大島 3 の 2 の 6 株式会社吉野工業所内		3E062 AA09 AB08 BB02 BB09 CA01 FB03 FC06 GB06 GB08
			3E066 AA66 CA01 HA03 JA01 NA60
			3E084 AA04 AB09 BA01 CA01 CC03
			DA01 DC03 FA09 FB01 GA04
			GB04 HA05 HB02 JA20 KA20